

第 13 回 第 16 章 内部統制と予算管理

<本日のテーマ>

今回は完全に理論問題のテーマです
最近では

11 回

【第 1 問】 次の設問に対して、それぞれ 200 字以内で述べなさい。(20 点)
問 1 工事契約に関する会計基準において、工事原価総額を見積る際の「施工者の義務を果たすためのすべての原価」という意義について説明しなさい。
問 2 原価計算基準では、原価計算の目的のひとつとして、「予算の編成ならびに予算統制のために必要な原価資料を提供すること」を挙げているが、この意義について説明しなさい。

練習問題 16.2(2)からの出題

16 回

【第 1 問】 次の設問に対して、それぞれ 200 字以内で述べなさい。(20 点)
問 1 原価をキャパシティ・コストとアクティビティ・コストに分類する基準を挙げ、各コストについて述べなさい。
問 2 期間予算編成に期待される機能について述べなさい。

練習問題 16.2(1)からの出題

20 回

【第 1 問】 次の設問に対して、それぞれ 200 字以内で解答しなさい。(20 点)
問 1 建設業において経常的に実施される事前原価計算の種類をあげて、それぞれの内容を説明しなさい。
問 2 機会原価とは何かについて説明しなさい。なお、支出原価との違いにも言及すること。

練習問題 16.1 からの出題

25 回以降の試験を考慮すると練習問題 16.3 (工事進行基準と内部統制)、16.4 (実行予算)が狙われることになる可能性が高いと思われます。いずれにしても、練習問題を主軸に確認しましょう。

① 事前原価計算の意義と種類

<経営レベル>

中長期経営計画 (3~5年)

短期 (1年) 利益計画

総合予算⇔部門予算 . . . 調整

<工事レベル>

見積→受注 (実行予算) →実施 (標準原価管理)

※建設業では実行予算が重視されがちであるが、経営者は全体計画を練る必要あり

② 期間予算の編成と管理

(1) 期間予算編成の意義

キャパシティコスト論

- F A化の進展により、直接労務費が低減→能率管理の事後差異分析の必要性が低減
- 逆に減価償却費などの固定増加により事前のコストコントロールが重要に

(2) 期間編成予算のタイプ

☆経常予算と資本予算

- 経常的予算→短期的予算 (業務的予算) →業務的意思決定とリンク (19.1 で説明)
- 資本的予算→長期的予算 (設備投資計画) →構造的意決定とリンク (19.2 で説明)

☆固定予算と変動予算

- 固定予算→操業度にかかわらず一定の予算 (景気拡大期に有効)
- 変動予算→操業度に対し複数の予算を作成 (景気不透明期に有効)

☆トップダウンとボトムアップ

- トップダウン (天下り型) →ブレイクダウン型
- ボトムアップ (積上げ型) →部門別予算編成

実務では折衷型

1. 経営トップによる予算方針の決定
2. 部門別に予算編成
3. 各部門の調整
4. 総合予算の作成

★差異分析

個々の工事ベースではなく、管理可能性レベルの分析
管理可能性レベル（責任会計との関係）

（外的要因）

- リーマンショックは最終的には経営者責任
- 為替管理ミスは経営者責任 or 為替管理部門
- 特定材料の予測ミスは現場長

（内的要因）

- 不測の事態をどこまで現場長または現場に責任を負わすか？（評価の問題）

③ 内部統制と予算管理

アメリカで発展→基本的には企業不祥事に対する対応

金融商品取引法による財務報告に係る内部統制

<経営者による評価><公認会計士による監査>

1. 業務の有効性および効率性
2. 財務報告の信頼性
3. 法令遵守
4. 資産の保全

もしも出題されたら、「財務報告の信頼性」「法令遵守」が書ければいいでしょう。
特に、財務報告の信頼性は工事進行基準の適用と密接な関係があります。押さえておきましょう。

<工事進行基準の適用との関係>

工事進捗率などの会計上の見積について経営者の恣意性を排除できないリスク
工事原価総額の見積（≒実行予算）に現場の偏った判断が入るリスク

この2つのリスクを排除するために、工事進行基準の運用指針などを策定することが
大事→結果として経営管理上のメリットにつながる

④ 工事实行予算の編成と管理

生産現場の期間的特性（工期のなかでの仕事）から原価管理は実行予算を中心に実施される

★実行予算作成に求められるもの

1. 受注活動のための見積原価から作業者も加わった達成可能な原価目標を中心とする
2. 期間利益達成の基礎をなすものなので、総合的利益計画とのバランスが必要
（一部の声のおおきな人の意見に流されないこと）
3. 責任会計制度との関連で管理責任区分毎の予算にするべき（一般的には工種別）

★事後原価との対比のため

事後原価の把握は勘定科目別が多いが、適切な工事コード・工種コード別にも集計できるようにしておく必要がある

16.1→事前原価計算の種類

長期経営計画（5年）→経営戦略レベル→全社レベル

中期経営計画（3年）→ 同上 但し、短期利益計画の積上げ

短期利益計画（1年）→総合予算→工事別予算

受注活動に関連する見積原価計算（短期利益計画の実践としての見積）

受注後は実行予算から差異分析（ここまで書いてもいいだろう）

16.2

期間予算編成に期待される機能→利益計画

期間予算編成と原価管理の関係→標準原価を中心とした目標管理

16.3

内部統制には財務報告信頼性や法令遵守が必要

→信頼性を損ねるリスクとして経営者の恣意性や現場の偏った考え方

→特に工事進行基準には原価見積、真直度見積もりなどリスク要因が多い

→よって工事進行基準適用の運用指針を衆知し、徹底する必要あり

16.4 実行予算

① 基本予算との関係と実行予算のタイプ

会計期間に対応する基本予算と各工事に対応する実行予算

タイプは書きにくい

② 建設業における実行予算の特質と機能

見積予算に現場の意見を補足

③ 工事別実行予算の編成ステップの要点

部門長による見積もり予算をベースとした利益計画策定（全社利益との整合性と現場の特徴の調整）

請負額は決まっている中で利益を出すために、責任会計を意識して工種別に予算を作成

④ 工事別実行予算と原価分類の関係

工種別・科目別